

資料 1 - 3

令和 3 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

犬山市地域公共交通会議

平成 1 9 年 4 月 1 日設置

フィーダー系統	令和 2 年 7 月 6 日	確保維持計画	策定
	令和 3 年 7 月 1 3 日	確保維持計画	変更

中部様式

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
コミュニティバスの評価については、路線毎に、各路線の特徴も踏まえた利用状況の分析をするようお願いします。	令和3年度にOD調査を実施し、路線毎の特徴を踏まえた利用状況の分析を実施予定です。	利用状況については、継続して情報を取得し、分析を行います。
フィーダー系統のみならず、フィーダーが接続する幹線（鉄道等）、民間バス路線等、公共交通ネットワーク全体での分析・評価をして頂くことが重要です。	令和3年9月に、公共交通全般に関するアンケート調査を実施しました。 (無作為抽出にて、市民2,000人を対象)	調査結果を次年度から策定予定の地域公共交通計画へ反映させます。
そのためにも、地域公共交通計画を早期に策定されることを期待します。	地域公共交通計画の策定にあたり、第三者である専門家から、現在の犬山市公共交通について、意見を伺いました。	令和4・5年度の2年間で、地域公共交通計画を策定する予定です。

【本市の目指す姿・方向性】

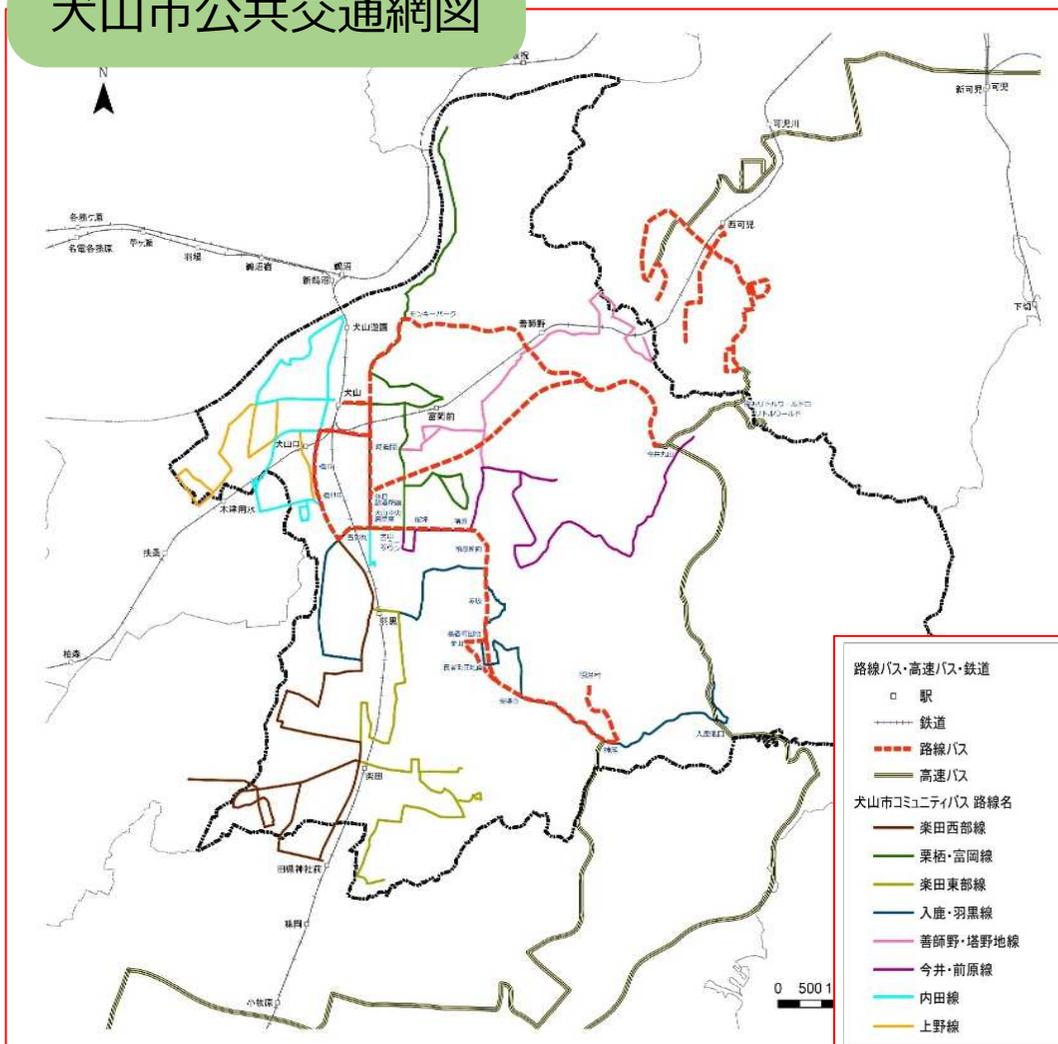
第5次犬山市総合計画に基づき、効率的、効果的なコミュニティバスの運行により交通空白地の解消と安心して利用できる移動手段の確保を目指している。

また、都市計画マスタープランに基づき、「いつまでも暮らし続けたいくなる都市」を目指すべく、バス交通の利便性を向上させ、多様な都市機能が充実した犬山駅、羽黒駅、楽田駅等の主要鉄道駅周辺と民間の路線バスやコミュニティバス等の公共交通を接続し、ネットワーク化を目指している。

【市内公共交通の役割分担】

- 鉄 道：市域を跨ぐ広域輸送
- 民間バス：主に観光路線を軸とした輸送
- タクシー：民間バス及びコミバスでカバーできない領域（地域・時間）の輸送
- コミバス：鉄道への接続を軸とした輸送

犬山市公共交通網図



【取組み①】 愛称の決定及び周知

犬山市コミュニティバスが多くの人に親しんでいただき、また、地域に愛されるバスとなるよう、愛称を募集し、「わん丸君バス」に決定した。

【経緯】

令和元年度に犬山中学校で行われた、「選挙の大切さを伝える主権者教育意見交換会」で、生徒から提案を受けて実施した。

【選考方法】

応募総数681件の中から、犬山市地域公共交通会議委員による1次選考を経て、市内在住の小中学生での投票により決定した。



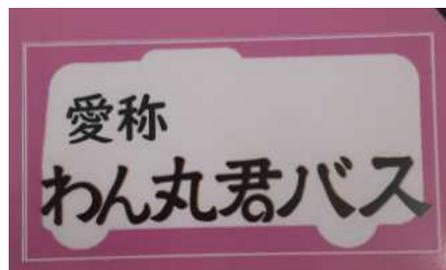
★記念品贈呈式★ 令和2年11月29日(日)

決定した「わん丸君バス」には93名の応募があり、抽選の結果、2名の方に、記念品を贈呈した。

【取組み①】 愛称の決定及び周知

【愛称決定後の周知】

- ★バス車体のラッピングを変更 ★全バス停に愛称のシールを貼付 ★時刻表・路線図の変更



その他

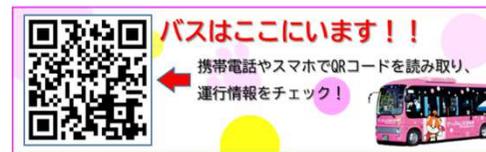
- ・市HP・広報に掲載
- ・コミュバス通信に掲載

【取組み②】 バスロケーションシステムの導入

わん丸君バスの位置情報当をリアルタイムで利用者が把握できることで、利便性の向上及び利用促進を目指す。

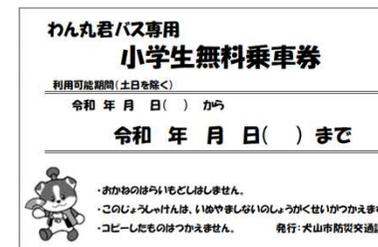
【周知方法】

- ・市公式HPに掲載（トップページに掲載）
- ・広報犬山に掲載
- ・コミュバス通信に掲載
- ・各バス停にQRコードシールを貼付



【その他取組み】

- ・モビリティマネジメントの一環として、市内在住の小中学生を対象に、コミュニティバスを無料で乗車できる乗車券を発行し、コミュニティバスへの親しみを深めてもらう事業を実施した。



- ・モビリティマネジメントの一環として、夏休み期間中に市内小中学生から、バスの絵画を募集し、市役所1階に展示した。
 展示期間 令和3年1月25日(月)
 ~ 令和3年2月8日(金)

- ・満員によりコミュニティバスに乗車できない事象(積み残し)の対策として、タクシー車両を活用し、目的のバス停までの運行を実施している。
- ・安心してコミュニティバスに乗車してもらうため、新型コロナウイルス感染症対策を実施。

ドライバーのマスク着用
 乗客へのマスク着用の協力依頼
 車内の定期的な換気・消毒

車内に抗ウイルススプレーの使用
 乗客用消毒液の設置

など



【目標①】 市内全駅での1日当たりの鉄道利用者数29,000人の維持

結果：令和2年度実績22,608人となり、目標は未達成

【目標②】 コミュニティバス年間利用者数の総計110,000人以上 (R2.10.1～R3.9.30)

補助対象路線名	目標(人)	結果(人)	達成の状況	昨年度実績(人)
栗栖・富岡線	14,000	10,637	× (達成率：76%)	12,890
上野線	14,000	12,886	× (達成率：92%)	14,321
今井・前原線	22,000	17,950	× (達成率：82%)	19,944
楽田東部線	5,500	4,782	× (達成率：87%)	5,759
善師野・塔野地線	17,000	16,116	× (達成率：95%)	15,184
内田線	9,500	7,916	× (達成率：83%)	9,313
計	82,000	69,355	× (達成率：85%)	77,411

補助対象外路線名	目標(人)	結果(人)	達成の状況	昨年度実績(人)
楽田西部線	9,000	7,528	× (達成率：84%)	7,649
入鹿・羽黒線	19,000	17,318	× (達成率：91%)	17,487
総計	110,000	94,201	× (達成率：86%)	102,547

結果：年間利用者数総計94,201人 (達成率：86%) であり、目標は未達成

【目標①】 市内全駅での1日当たりの鉄道利用者数29,000人の維持

結果：令和2年度実績22,608人となり、目標は未達成

【考察】

新型コロナウイルス感染症拡大や緊急事態宣言（移動自粛）の発令等により、利用者が減少し、目標は未達成となった。特に観光客の利用の多い犬山駅・犬山遊園駅は大きく減少している。

【目標②】 コミュニティバス年間利用者数の総計110,000人以上（R2.10.1～R3.9.30）

結果：年間利用者数総計94,201人（達成率：86%）であり、目標は未達成

【考察】

新型コロナウイルス感染症拡大や緊急事態宣言（移動自粛）の発令等により、利用者が減少し、目標は未達成となった。しかしながら、増減率はコロナ禍前の事業年度との比較で約17%減にとどまっており、特に観光地等娯楽施設の少ない路線については、減少率が低く、コロナ禍においてもコミュニティバスは移動が必要な人の交通手段として機能していると考えられる。

※コロナ禍前の事業年度の乗車人数（全8路線）

H30.10～R1.9 115,184人

※直近の事業年度の乗車人数（全8路線）

R2.10～R3.9 95,133人

コロナ禍において利用者が減少している中、更なる利用者数の増加を目指す必要がある。

【課題①】

キャッシュレス化が進んでいない。

【対応】

わん丸君バスにキャッシュレス決済を導入し、利用方法について周知していく。

【課題③】

利用者アンケート結果より、乗車時間が長いとの意見が多くあるが、コミュニティバスの特性上、改善することが難しい。

【対応】

バス車内の掲示・チラシ等を改善し、乗車中の時間をつぶせる仕組み作りを行う。

【課題②】

目的地までの最適ルートや乗り換え方法がわかりにくい。

【対応】

Googleマップへ反映させ、検索を容易にできるようにする。

【課題④】

小中学生について、夏休み無料乗車後のアンケート結果から、わん丸君バスの基本的な情報が周知できていないことがわかった。

【対応】

無料乗車券と併せて、わん丸君バスの案内文（チラシ）を配布する。